

第5回

明日から始められるEBPM実践術

データ収集の考え方

日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門マネジャー（EBPMアドバイザー） 菅 章

今回は、証拠に基づく政策立案（EBPM）の取り組みを進めるにあたり必要不可欠となる、データ収集についての考え方を紹介する。EBPMを推進するにはデータが必要だからと言って、やみくもに調査を行って新しいデータを集めてしまうと、効率が悪いだけでなく、肝心の目的を見失い、方向違いの結論を導いてしまう恐れがある。まずは既に存在しているデータから分かることを整理し、それから追加調査を行うことが大切だ。

データ収集のステップ

EBPMの取り組みにおいて、データ収集は図に示すステップに沿って進めることが望ましい。まずは関連する既存データ（二次データとも呼ぶ）を棚卸しして、分かることを整理する。既存データは公的統計や民間企業が公開している調査データ等が該当し、無償で公開されているものも多い。このため、このステップをおろそかにして追加調査を行ってしまうと、本来は無償で把握できる内容までコストをかけて調査することになる。

また地方自治体では、日々の業務活動を通じて収集される行政記録情報（行政業務データ、行政データとも呼ぶ）も既存データとして挙げられる。特に税務データや保険診療レセプトデータ等は、EBPMの取り組みで活用されることが増えてきて

いる。行政記録情報はあくまで業務のために収集しているデータであり、分析したい項目が十分そろっている保証はないが、網羅的で正確なデータなので、活用できるかどうかを考えてみると良いだろう。

既存データで分かることを整理したうえで、設定した調査仮説を調べるにあたり既存データでは不足する場合に、アンケート調査やビッグデータの購入等の追加調査を検討する（新しく取得するデータを一次データとも呼ぶ）。

主なケースとしては、既存データの項目が不足している（例えば世帯年収の項目がなく経済状況別の分析が出来ない）、粒度が粗い（例えば全国のデータしかなく地域別の分析が出来ない）、データが古い（例えばコロナ禍以降のデータがなく行動変容後の分析が出来ない）等が挙げられる。

このように段階を踏んでから追加調査を検討することで、既存データで不足する項目をアンケート調査の項目に盛り込む、リアルタイム性が求められるため関連するビッグデータを購入するなど、アンケート調査やビッグデータ購入の調査設計も行いやすくなる。

e-statをどう使うか

データ収集を効率的に進めるためには、どのようなオープンデータが利用可能か知っておくことが重要だ。表にEBPMの取り組みにおいてよく用いられるオープンデータを示した。

政府統計のポータルサイトであるe-statは使ったことのある方も多いだろう。中央官庁が公表す

かん・あきら 1992年横浜市生まれ、東京大学経済学部経営学科卒、同大学院経済学研究科修了。2016年日本総合研究所入社、データ活用・EBPM支援や人口推計・少子化関連支援等各種コンサルティングに従事。23年より週1回法務省へ出向（EBPMアドバイザー）。

る統計情報が一元的にまとめられており、統計名を指定しての検索（例：国勢調査）だけではなく、指標名を指定しての検索や（例：合計特殊出生率）、分野を選択して関連する統計を一覧表示することも可能になっている。

加えて、e-statの中のデータ活用ツールとして、主要な統計データのグラフ表示や、e-statとは異なる方法で（分野内の指標一覧から選択する形で）データの検索・取得が可能な統計ダッシュボードも利便性が高い。グラフやレーダーチャートの形で地域間比較を簡便に行うことも出来るため、使ったことのない方は一度アクセスしてみると良いだろう。

更に、同じくe-statの中のデータ活用ツールとして、地図上に統計情報を描写出来るjSTAT MAPも有用だ。jSTAT MAPでは搭載されている政府統計データに加えて、利用者が保有するデータも重ね合わせて地図上に表示できる。通常、このような地理的分析を行う際は専用のソフトウェア（GISソフト）を用いる必要があるが、jSTAT MAPであれば無償で地理的分析を行うことができる。jSTAT MAPを使い地理的分析の勘所をつかんでから、GISソフトを購入するケースも見られる。

ビッグデータ・ポータルを活用する

ビッグデータについては民間企業が有償で販売しているケースがほとんどだが、2023年1月より、総務省がビッグデータ関連情報のプラットフォームであるビッグデータ・ポータルの試行運用を開始している。ビッグデータ・ポータルでは、国内

図 データ収集のステップ

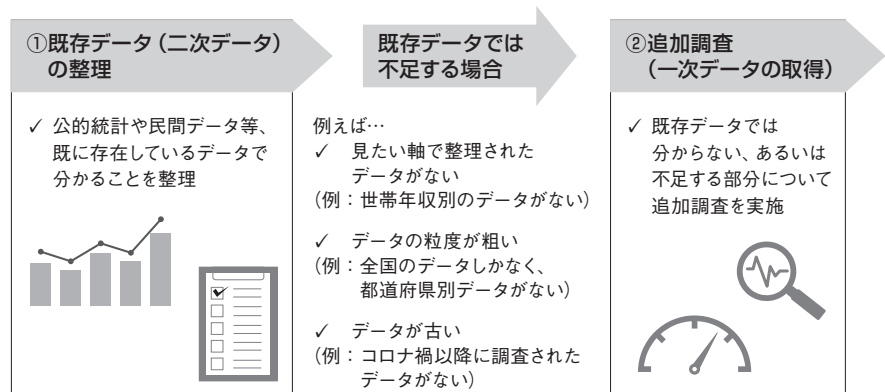


表 よく用いられるオープンデータ

統計ツール・データソース	所管省庁	特徴
e-stat	総務省統計局（運用管理：独立行政法人統計センター）	✓ 各府省等が公表する各種統計情報を一斉取得できる政府統計のポータルサイト
統計ダッシュボード		✓ 主要な統計データをグラフ表示、あるいはデータ取得出来る統計ツール
jSTAT MAP		✓ 地図上に統計情報を描写出来る統計ツール
ビッグデータ・ポータル	総務省ビッグデータ・ポータル事務局	✓ 様々なビッグデータやその利活用等に関する情報（事例、学習コンテンツ等）を一元的に提供するプラットフォーム
マイクロデータ（調査票情報）	総務省統計データ利活用センター	✓ 行政機関が実施した統計調査の、集計前の個票形式のデータ（世帯単位・事業所単位等）※利用にあたっては所定の手続きが必要
RESAS	内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局、経済産業省	✓ 地域経済に関連する様々なビッグデータを「見える化」する統計ツール

で販売されている様々なビッグデータ（人流、交通、キャッシュレス、POS、インターネットログ、SNS等）の概要や、ビッグデータの利活用事例、データ利活用関連の学習コンテンツへのリンク等が掲載されており、一部のデータについてはサンプルデータも利用可能となっている。

ビッグデータは情報量の多さやリアルタイム性の面で優れており、有効に利活用出来ればEBPMの取り組みを大きく進めることが出来る一方、有償販売がほとんどであるため購入に先立って有効性を示すことが比較的難しい。その結果、予算が獲得できずに購入に至らない、という悪循環に陥っているケースも見られる。ビッグデータ・ポータルに掲載されている情報はこのような悪循環から抜け出す一助となるだろう。